

ない。そうすると、そういう子どもたち、自分のものをつくるじゃないですか、おもちゃのかわりに。そういう活動の中で、やっぱり精神的に強くなるんじゃないでしょうか。例えば、麻薬を使ったら満足するのではないですか。おもちゃがたくさんあったら同じ効果じゃないでしょうか。急になくなった場合、自分の力を出したら、やっぱり精神的に強くなります。これも1つの幼稚園の中の予防です。

非常に複雑ですね。やっぱり幼稚園からそういう指導が絶対必要です。1つの例です。レゴをご存じですか。レゴのおもちゃ。

子どもたちの中、ある1人の子どもがレゴで一番上手な子だったんです。毎日遊んでたんです。その1人の子が王様になっちゃったんです。それで、全部、そのおもちゃ取ってしまったら、その子はもう王様じゃなくなったんです。おもちゃもないから、普通の子どもになっちゃったんです。そうすると、やっぱりフラストレーションが出てきたんです。急にそういう環境の変化があったから、これも、物の使い方に対しての1つの訓練です。もし物がなくなった場合、自分の力でやったら、何か、生き方ができるんじゃないでしょうか。

すべてのアルコール、麻薬、たばこは、やっぱり物足りないかわりに使うじゃないでしょうか。急にそういうフラストレーションが出てきたから、これ使っていると。

そういう訓練、そういう説明、そういう活動をやっぱり幼稚園から小学校、学校の中ですね、学校の方はなかなか難しいです。もうおもちゃがないから。けれども、やっぱり子どもたちの中、1つのステータスがあるじゃないですか、スポーツの関係で優秀な、そういうステータスがなくなったときに、かわりに団体行動で、こういう子どもたちに何かあげたら、そのかわりにのものを使わないです。

こういう授業の内容は、授業の中で先生方のテーマになりますよ、予防のために。そうすると、そういう専門家、学校まで行って、先生とお話しして、授業の中にそういうプログラムの紹介するんです。1つの予防です。

それで、PTAの関係で説明会をするんです。例えば、幼稚園まで行って、ないしょでカメラの撮影するんです。子どもたちの遊ぶとき。これを見れば、何となく、子どもの性格が出てくるのではないのでしょうか。遊び、団体行動で。それで、その映像、PTAのとき、両親たちに見せて、分析します。こういう子のいいところ、弱いところですね。例えば、団体行動の中ですごくわがまま、けんかばかり、黙って、あんまり話さない、寂しそうな顔をしているとかですね、そういう映像は1つの予防プログラムとなります。

本当は麻薬は全然関係ありません。フラストレーションをほかの方法で解決することが大切です。麻薬を使えば、問題の解決が回り道に入ってしまう。本当に精神的に強い人は、たばこ、アルコールは必要ではない。やっぱり弱い人のために、全体的に強くなるために、フラストレーションをほかの方法で解決する必要があります。

○中井議員 その経験者の方を立ち直られたお話ありますね。幼稚園、小学校、中学校、学校

教育を通じて、物事をまずよく考え、自分の意志で強い人間に育てていくと、こういうふうな教育のプログラムがある。それが青少年健全育成になっているということですか。

○説明者 例えば、ご家族の方は元気、経済的にオーケー、周りのこともオーケー、そういう強い人間、強い子どもになるんじゃないかと、けれども、我々の社会の方、やっぱり足りないところがありますから、こういうプログラムが必要です。予防、教育です。

運転免許じゃなくて、両親たちの免許のための勉強会もあります。余り難しいから。ドイツの方、今、5年、6年間の間で、ほとんど1日おきに、未婚の母が赤ちゃん産んで、2日間、ディスコまで行って、赤ちゃんが死んでしまうというような記事が、新聞に載っています。未婚の母だけじゃなくて、若い新婚さんも。免許を取るべきです。

直接やっぱり両親たちのために。例えば、お父さんが麻薬中毒だったら、子どももまねして、同じ道に入ってしまうんじゃないかと。それで、ヘッセン州の中でたばこに対してもすごく厳しくなりました。

これも1つの社会問題ですが、日本の場合は売ってないですか、ソフトドリンクの中にアルコール入ってたんです。ポップスドリンクというドリンクあったんです。コカ・コーラより安かったんです。子どもたち、スーパーマーケットへ行って、飲んでべろんべろんになったんです。今、そういう飲み物はすごく高くなりました。もちろん、ドイツは16歳から飲酒はできますが、証明書は必要ではなかったんです。今、スーパーマーケットへ子どもたちが行ったら買うことができません。自分の証明書が要ります。

子どもたちのためのノンスモーキングの関係もあります。例えば学校で、署名をして、お互いに約束するんです。そして、2年間の間、学校・クラスの中、誰もタバコを吸わなかったら、冒険のために週末、旅行というご褒美があると。約束をして予防するんですよ。

調査によると女子のスモーキングは13歳からです。小学5、6年生から、ノンスモーキングについて直接学校まで行って、まだ、たばこのことを考えてない、そういう子どもたちに注意するんです。スモーキングの前に約束するんです。それで、2年間の間、団体行動でそこまでいかないという約束します。そうすると、やっぱりお互いに競争の気持ちが強くなるから、うちの組は強い、隣の組は弱いといったね。やっぱりご褒美は大事なことです。約束とご褒美です。

例えば、ちょっと飲んだり、ちょっと経験した人のために、スペシャルなスポーツの活動、冒険隊、例えばクライミング、ボート、力が必要なスポーツ、やっぱり冒険、体験の方は、適度な刺激です。早くやっぱり刺激、ちょっと激しいスポーツ、ロッククライミングやったら、上の方に着いたら、やっぱり1つの刺激じゃないでしょうか。

後は、ほかの問題です。学校の中で、お手洗い、休憩の間に、麻薬、マリファナ飲んでたときの問題の解決、あるいは予防のために。

もともとは、やはり退学だったんです。そういうことがあったら、すぐ。けれども、今、

契約があるんですよ、校長先生と、こちらの事務所と。まず1つの目的は学校の方を入れた方がいいと。そうすると、終わってから、校長先生、学校の先生、こちらの専門家と両親たち、三角でお話しするんです。

子どもがだめになっちゃいけない、これ第一です。やっぱり、尿を検査するんです。まずは、子どもから約束、守るかどうか。けれども、毎日、尿もらえばわかるんじゃないですか、破ったらやっぱりよくないです。

○水谷議員 今までのお話を整理しますと、ポスターでは、あまり解決ための理解が図れなかった。それで、1993年から逆になることは2つあって、本人に直接話をしていく、それと家族の経済とか、そういったものも考えてやらなきゃならない。そして、もう一つは、親を教育することも大事というふうに、勉強されるんですね。

そして、そのフラストレーションを解消するために、スポーツも重要だと。あともう一つは、本人と約束したことを破ったらご褒美もらえないと。約束守ったらご褒美もらえると、こういうことになっていったんですね。

○説明者 まず、先生にとって、コントロールのことではなくて、裏のことを考えなくちゃいけない。その本人、社会の裏のこと。昔は警察が逮捕していました。これは解決になりません。

もしそういう問題になったら、一人一人の子どもに対しての問題の解決をしていかなくちゃいけない。最初はやっぱり裏面の方です。

そうすると、こちらの事務所の目的、幼稚園から問題になったときまでの、これ割合早くわかってたんです。やっぱりそういう、専門家が、たくさん要ります。政治家たち、警察、厚生省の方、広い意味で教育、あるいは麻薬の関係ある方と一緒に話して、お互いに話さなくちゃいけない、新しい道のためにです。

それで、話だけじゃなく、実現しなくちゃいけないです。そうすると、この件についてドイツの中で代表的なものになる、それで、ほかのドイツのまちがまねしたんですよ。

ごらんになってください。あの公園の中、今はそういう人はなかなか見られない。昔はやっぱり、社会民主党とキリスト党の間で見解の相違があったんですが。例えば、売る人に対してやっぱりすごく厳しい、すぐ逮捕です。これは当たり前。けれども、かわりに警察は、薬物使用者をここまで連れてくる。20年前は、その人たちは半年たったら死んでしまったんです。けれども、そういう人、今は元気で生きてるんじゃないですか。

こちらの毎日、さっきのメタドン飲む人は66歳でずっと中毒です。もちろん仕事ができないけれども、元気で生活しています。自分のアパートの中に住んでいます。

ほか、アルコールとか、あんまりほかの麻薬を余り飲んでいません。それで、普通の人間との関係はちゃんとあります。

○中井議員 日本の場合は、麻薬の類を使用すれば、すぐ逮捕。なかなか私どもの身の回りに

は、こちらのよう形での麻薬患者というのが目に見える形ではないんです。

でも、将来のことを考えますと。やはり何らかの国レベルの対処が要るのではないかなどいうことをきょう感じ取らせてもらいました。

○説明者 そうですね、日本の、大阪市とか、そういうところはあるまいですか。

堺市の方は全然ないんですか。

○中井議員 ほとんどない、わかりません。

○説明者 堺市の人口は。

○中井議員 83万人。

○土師議員 シンナーの常用は多い。

○説明者 何歳ぐらいですか。

○土師議員 高校生のシンナーが多いですね、公園で吸っていたりします。

○説明者 例えば、麻薬とか、マリファナはあるまいですか。

○中井議員 そうですね。

○説明者 1980年まで日本と同じで、すぐ逮捕です。けれども、そういうやり方は問題の解決になりません。それで、後は刑務所に入ったら、ないしょでそういうものが入ってくるんです。これは、刑務所の中では当たり前です。そうすると、やっぱり新しい道の方、考えなくちゃいけないんです。本人のために、段階的にそういうことを。例えば、今の話は若い人だけだけれども、高齢化社会の中で使う人がいますよ。日本人にとって、そういう人は違法者でしょう。こちらの考え方では、病気です。1つの病気です。麻薬の歴史、もうずっと前からです。でも、病気という考え方は割合新しいです。1つの大きな病気ですね。こちらの考え方は。

例えば、こちらの方、離婚率は50%です。家族の方、例えば未婚の母、離婚、いろいろあるじゃないですか。それで、競争社会、格差社会ですね、やっぱりそういう子どもたちは病気になります、病気にかかった子どもたち、やっぱりそういう麻薬の道に入ってしまうんじゃないでしょうか。ほかの子どもたちは万引き、ほかの子どもたちは売春、あんまりいいことじゃないですけど。

違法という説明はなかなか難しいじゃないですか。病気でしょうね。

○西議員 麻薬を使うことは、ルールとしてはだめなんですか、するかどうかは別にして。

○説明者 法的にですね、売る方は違法です。

○西議員 使う方は違法じゃないのですか。

○説明者 違法じゃないです。

○西議員 捕まらないだけじゃなくて、使っても、別にいいと。

○説明者 そうです。それと、量によってです。例えば、私、ポケットの中に500グラムのコカインがあるとします。捕まったら500グラムの所持はツー・マッチですよ。

○西議員 持ち過ぎね。

○説明者 持ち過ぎれば逮捕、罰金です。けれども、1グラムはオーケーです。

けれども、それはまちによって、州によって違います。こちらのフランクフルト市は割合開放的です。

○水谷議員 ベルリンはだめですね。

○説明者 一番開放的なのは、こちらのフランクフルト。ベルリンはもっと厳しいです。

でも、全く同じ社会の中です。

○西議員 それであればいいんです。だめなことが認められてるって、法律的な矛盾がどうなんだろうと思ったことが1つです。

それからもう一つ、先ほど、予防学のドクターが幼稚園でのいろんなプログラムがあるとおっしゃいました。それは、例えば評価するときに、麻薬犯罪者が減った以外の指標というのは、存在しているんでしょうか。物差し、はかる基準というものは。

○中井議員 例えば、子どもたちに幼稚園がプログラムをした、そのプログラムを実施したその結果、どういうふうな成果だったのか。麻薬患者が、例えば1,000人から100人に減ったとか、一般家庭の中で、麻薬というものが使われなくなったとか。

○説明者 連邦の政府の関係ですね、認められたプログラムがちゃんとありますよ。各文部省か、厚生省の関係で、評判になったものを使うんです。あとは、ノンスモーキングの関係で、2年ごとに学校まで行って調査を、先生方からどうなったかの結果をいただきます。やっぱりそういうプログラム使ったらすごく効果的です。

○西議員 何をもって効果的と判断するんですか。

○説明者 ノンスモーキングの場合は簡単じゃないでしょうか。

○西議員 スモーカーが減るということですか。それ以外は。

○説明者 減ったとか、そこまでいきません。わかるんじゃないですか、スモーキングの場合は。

○西議員 いやいや、スモーカーが減った、麻薬患者が減った以外の評価指標というのはあるんでしょうかということですか。

○説明者 15年間、そのプログラムの関係、やっぱり子どもたちの比率の関係ですね、麻薬、スモーカーとアルコール中毒になった数字わかるんです。けれども、もちろんまちの中全部じゃなくて、非常に評価が複雑です。

例えば亡くなった人の数、万引きのこととか、これだけに限れば評価は簡単ですが。両方の場合は難しいじゃないでしょうか。

若い人の中の失業率が非常に高くて仕事がなかなか見つからないということについては、今、一番悩んでいるところです。

○西議員 それが先ほどのプログラムを導入したら減るとい結果が出てますか。

○説明者 例えば、1つのプログラムでは、14歳、15歳になったとき、訓練の関係で銀行に入って、デパートに入って、簡単な仕事、見習いの仕事するんです。これも1つの予防です。生涯に対して、仕事に対する意識、強くなるんです。

○中井議員 一般のという表現悪いかもしれませんが、両親がちゃんと、経済的な仕事をしているという家庭で健康な家庭の場合は、麻薬などのそういう使用者というのは、家族にはほとんどおりませんか。先ほどは貧しい家庭というふうにおっしゃってましたけれども。

○説明者 新しい現象ですが、共稼ぎの場合、お家の方は経済的にすごくいいです。子ども1人、子どもはお金をたくさんもらうけれども、家庭での指導はあんまりしない。こちらの学校は1時まで。帰ったらだれもいない。そうすると、やっぱりそういうお金の関係で、こういう社会に入ってしまう。

しかし、ほとんどは貧困層の若い人、やっぱり薬物使用者の中で、一番困っている人たちです。けれども問題はやっぱり、お金持ちの家族の方にもあります。

○中井議員 そうですね、経済的に豊かであっても、子どもの教育が手薄になった場合は、流れていく可能性ありますね。

○説明者 ドイツの場合、一番難しいのは、やっぱり未婚の母です。離婚して、経済的にお母さんは困るんじゃないですか。仕事、子ども1人。お母さんが精神的にストレスに陥ります。

○池田議員 先ほどスポーツの更正について、おっしゃっていたですけど、もう少し具体的に詳しく説明いただけますか。

○説明者 私は柔道の方です。子どもたちのためにですが。やっぱり更正のために一番いいのはスポーツです。それに、今、趣味はマラソンです。やっぱり若い人の中に、セラピー入れたらすごく効果的です。ランニングも。

○池田議員 ヘッセンのスポーツ連盟で言っていたストリートサッカー、それはどうですか。

○説明者 フランクフルトの中、そういうコースもございます。

○土師議員 僕から1つだけ質問。校長ですね、学校と相談所と家庭ですね、3者で予防していくという話ですね。これ、堺がそうだとするのではないんですけれども、日本の場合は、学校はどうもその情報の透明性を守らないというのでしょうか。要するに、うちの学校は優秀だということで、そういう生徒がいるということは、余りオープンにしたがらないんですけれども、やっぱりそれでは問題の解決にはならないんですけれどもね、ドイツの場合は、学校においてはいかがなんでしょうか。

○説明者 こちらの教育に関する考え方は全く違います。そこまで学校は考えていません。こちらの学校は8時から1時まで。帰ってしまったら、もう学校は関係ないと。だけど、これからはやっぱり変わっていくんじゃないでしょうか。

○土師議員 関係ないということは、学校は要するにシビアな判断ができるということなんですか。関係ないということは、要は、子どもと両親、子どもの解決のために両親と学校と、

生活相談所、三位一体で解決しなければいけないわけですね。我々は学校を保護者は守る立場で一生懸命するのですよ。信頼関係ですから。でも、学校によってPTAから責められるのは嫌なものですからね、なるべく隠そうというたらおかしな話なのですが、そういう傾向が強いんですね。日本の文化として、なかなかそれでいくと、子どもの本当の更正がしにくいんですけども、こっちの場合でも同じような傾向があるということですね。

○説明者 こちらの方、まず最初は校長、学校の方、こういう資料見て反対だったんです。必要ではない、別に要らない。先生でも十分の力を持っていると。けれども、最近は大分変わってきたんです。

○中井議員 先ほど、1,200人ほどの常習者ですね、麻薬中毒おられると言われましたけれども、そこに至らない、いわゆる麻薬というものを使用されている、軽い人を含めた、おおよそどれぐらいおられると推察されますか。まちの中で、フランクフルト全体で。

○説明者 こちらの人口は65万ですが、こちらの人口だけじゃなくて周辺地域の人口も入れなくちゃいけません。フランクフルト市以外の。そうすると、周辺地域のこと考えたら、少なくとも、毎日1万人ぐらい、外から入ってきて、麻薬買って、帰ってしまうんですよ、1万人ぐらい。

警察からそういう数字をもらっています。今、ないしょでビデオを撮影するんですよ、それでそういうことわかります。

○中井議員 わかりました。大変な数ですね。子どもたちのアルコールはどうですか。

○説明者 ないしょで子どもたち飲むんですよ。12歳の子どもたち、信じられない。アルコール40%、飲んだら、もうべろべろになります。

○中井議員 それほど麻薬というものは魅力的なんですか。

○説明者 やっぱり15歳、16歳、17歳になったとき、新しいものに対して興味があるんじゃないですか。こういう子どもたちは、1回、2回飲んでもあんまりおもしろくない。けれども、こういう子どもたちは病気にかかっているから、やっぱり魅力があるんじゃないでしょうか。

こちらの立場、本当の社会問題はアルコールとニコチン。これがやっぱり社会の負担になります。肺がんや、飲酒運転です。

○中井議員 大変な仕事だということはわかります。大変な仕事をされておられるのにふさわしいお金をいただいていますか。

○説明者 少ないけれども、満足しています。

○西議員 麻薬が減るとかというのは、彼のプログラムのみならず、いろんな要素が加わって減るということで、僕は理解してるんです。

彼のプログラムは20年後にしか評価をされないんですよ。

○説明者 例えば、こちらのプログラムは少なくとも。2年間たったら、やっぱりその結果が

出ます。

○西議員 その結果、何が変わるのですか。

○説明者 例えば、スモーキングについては、はっきりわかるじゃないですか。2年たったら。例えば、1つの学校でプログラムを導入するじゃないですか。子どもたち100人に。隣の学校はプログラムを使っていない。2年間たったら、比率的にわかるじゃないですか。これ学校でのスモーキングの話です。

○西議員 幼稚園でやってるって、僕はそれがすごい知りたい。難しいと思うから。

○説明者 例えば、子どもの方、将来のことを考えたら、おもちゃ取ってしまうんです。後、どういうふうに解決するかどうか。こちらの方おもしろいでしょう。

○西議員 そうですね。

○中井議員 日本では非常に見られない、こういう現場を見せていただきまして、ショッキングでしたけれども、やっぱりこういう視察が大事だと思います。本当にありがとうございました。